

大志

加賀市議会議員 辰川志郎 議会だより



令和元年6月30日発行
第21号

令和元年6月議会

かがやきは西へ



加賀市商工会議所屋上からの展望

加賀市の今とこれから

「令和」年度最初の定例会にあたり、これまでの「平成」年度から加賀市の課題とされる人口減少問題、少子高齢化、空き家対策、さらには景気低迷による対策など、様々な課題に、引き続き取り組んで参ります。

現在2023年度の敦賀延伸に伴い、新幹線工事も急ピッチに進んでいる。

また、今年度は敷地町から菅生、弓

町をつなぐ大聖寺道路も着工の目途がつき、国道八号線の四車線化に伴い、熊坂から牛ノ谷までをトンネルでつなぐルートも具体化されて計画も順調に進んでいます。

これらの道路整備により、加賀市の観光、流通経済などに大きな効果が期待できるとあろう。

キャッシュレス決済推進 助成事業について

〈質問〉

■山代温泉通り商店街における実証事業の具体的な内容とその成果について

「答弁者」 観光推進部長

山代温泉通り商店街において昨年十月よりキャッシュレス化推進事業として、決済端末機の導入を実証した。

内容は温泉通り商店街振興組合が事業実施者となり、加盟二十店舗に多種類のカード決済やモバイル決済に対応できる端末機器を一括購入し、それを各店舗に貸与したものである。

成果については、3月末までの6ヶ月において、キャッシュレス決済の取り扱い件数は8236件、取扱金額は1126万円となっている。

売り上げに対しては、約37%の店舗が増加傾向にあり、約半数以上の店舗が役に立ったと実感した。

外国人客に対しては、増加した店舗も約13%あり、今後の外国人観光客の増加に伴い、利用の増加も期待できる。

■他の商店街についての決済端末機器導入における支援策はあるのか。

「答弁者」観光推進部長

具体的な支援内容としては、市内商店等が多様なキャッシュレス決済端末機を導入する場合、自己負担の4分の3、四万円を上限に助成する。また、明細を印刷するためのプリンターを導入する場合においても、その費用の2分の1、一万円を上限に助成し、端末機と併せて合計五万円を助成する。

【私見】

近年、各種クレジットカード、電子マネー、QRコードといった多様なキャッシュレス決済が普及し、それらに対応できる決済端末機器の導入は必要不可欠となる。

今後においても外国人観光客や若年層のスマホ決済などの増加に伴い、中小商店においてもこのような助成制度はありがたい。



農林水産業振興行動計画 策定事業について

〈質問〉

■地産地消について

金沢市では大手のパン製造会社が倒産したため、給食用のパンが供給されず、ご飯食に変わったと聞か、加賀市では供給が間に合っているのかどうか。また、パン食とご飯食の比率と、その他の食材についての地元産の利用率を問う。

「答弁者」教育委員会事務局長

加賀市の学校給食の献立は、市内統一メニューで実施している。パン食については、月一回の提供とし、他は全てご飯食としている。

その他の食材については加賀市産の割合は13%、石川県産は19%、残りは県外産となる。

学校給食に使用する食材は多量となるため、地元産だけでは賅えなく、安定した必要量を確保することは難

しい状況にある。

市としても、JA加賀や南加賀農林総合事務所などの関連機関と連携し、地元産の食材の必要量の確保に努め、地産地消の拡大に努める。

■地域ブランドとしての開発における行政の役割について

新商品開発のため、行政と民間で意見交換や支援策などを検討する必要があると考えるが、そのような計画があるのかどうか。

「答弁者」経済環境部長

「加賀市農林水産業振興行動計画」は、オール加賀の体制で、市と連携して検討を進め、計画を策定することとしている。

農林水産物の商品化にも「高付加価値化」を目指し、マーケットや消費者ニーズに合致した商品づくりに取り組む。



【私見】

学校給食のパン食が月一回とは意外である。少子化の進行する現在、需要の減少により、町のパン屋さんがないのも無理はない。コメは100%加賀市産であることは納得できるが、他の食材に関してはまだまだ加賀市以外の供給に頼っているため、加賀市産の食材が増えるよう努力するべきである。

地域ブランドの開発には行政は検討し、計画を策定するといったも実行にはつながらない。ここは現場の生産者が中心となって、実行するためにはどうするべきかを行政に持ち上げるべきである。

道路建設計画について

〈質問〉

■大聖寺道路について

加賀温泉駅から大聖寺菅生をつなぐ県道串加賀線「大聖寺道路」についての実施計画と進捗状況についてを問う。

「答弁者」建設部長

この道路は加賀温泉駅から大聖寺菅生を直結する道路として、平成二十七年より都市計画化され、翌二十八年より石川県が事業に着手した。

昨年度末までに、新幹線工事と並行する敷地南交差点からJR北陸線までの区間について、用地買収は完了した。

事業としては用地買収の完了した区間において今年度より、地盤改良工事に着手する。

また、残りの区間については、今

年度、測量、調査設計を実施し、地元や地権者との調整に着手する。

【私見】

この道路は新幹線に並行し、三つ

の河川とJR北陸線を跨ぐ延長1.5kmの道路で約三分の一が橋梁区間となるきわめて難工事が予測される。

この道路ができると、加賀温泉駅から大聖寺までの観光客や一般市民



生活環境の向上

安全・安心の確保

のアクセス、大聖寺から加賀市医療センターまでの救急医療活動の円滑化が図られるなど、住民の安全・安心が確保され、流通や経済においても大いに期待できる。

■国道八号線四車線化工事について

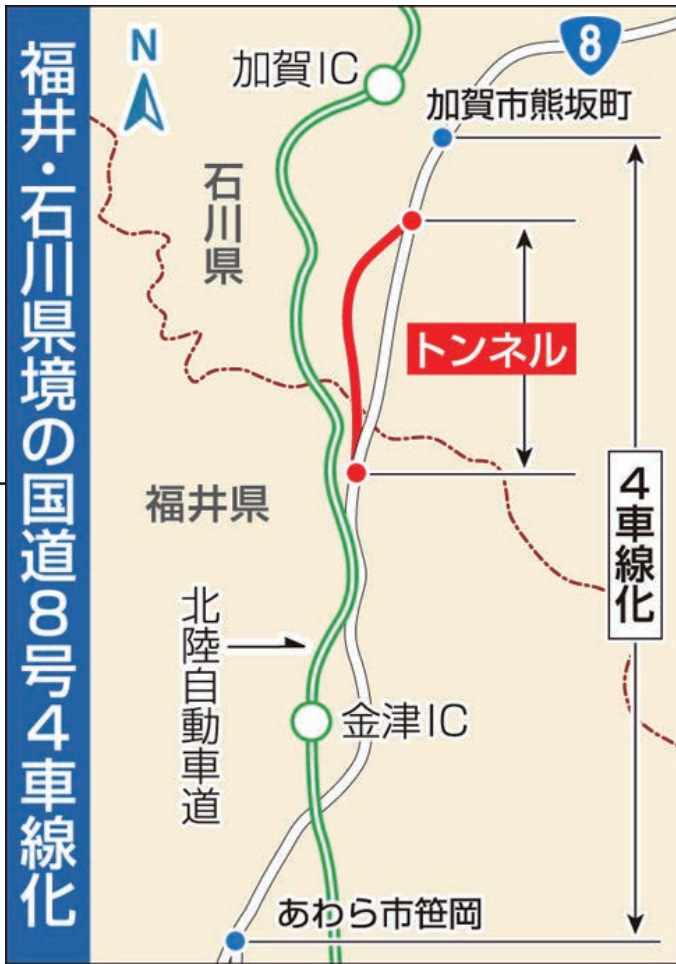
〈質問〉

熊坂―牛ノ谷間の国道八号線四車線化工事について、事業計画の進捗状況を問う。

〔答弁者〕建設部長

国土交通省は、今年度より新たに石川・福井県境部の国道八号牛ノ谷道路の事業に着手し、五月三十一日は石川県と福井県に都市計画決定要請書を加賀市長、あわら市長立会いのもとに手交式が開催された。

国道八号牛ノ谷道路は、現状道路の拡幅と別ルートでのトンネルを新設し、四車線化を進める計画となっている。完成した際には、災害に強



い強靱な道路として大きな効果が期待される。

今後の事業スケジュールとしては、国土交通省より具体化に向けた調査設計を進め、地元関係者との合意形成が図られた後、計画案を作成し、市の意見を踏まえ、県の都市計画審議会を経て都市計画決定する。

今後も事業が早期完成出来るよう、加賀市・あわら市と連携し、一層努力を重ねる。

【私見】

国道八号線の丸岡―加賀熊坂間は一昨年の豪雪時、一五〇〇台もの車輛が三日間も立ち往生し、死者も出るほどの大きな災害となった。

この事業は以前から加賀市・あわら市と連携し、国土交通省に陳情を重ねてきた結果、ようやく具体的に進行しつつある。

完成の暁には、並行した北陸道と同様、流通経済に大きな効果が期待ができる。

編集後記

五月より新しい元号が「令和」となったが、加賀市においては「平成」より引き継ぐ課題は多い。

最大の課題は「人口減少問題」であり、このまま進行すれば将来の労働力不足、税収の減少、経済の低迷は計り知れない。

幸いに新保町における工業団地の整備、大聖寺道路の着工、2023年には新幹線の敦賀延伸、さらには国道八号線の四車線化などインフラ整備も着実に進行し、これらをチャンスに人口減少を食い止めなければならない。

この会報へのご意見をお聞かせ下さい。

<http://www.tatsukawa.jpn.com>
E-mail: daishimore21@yahoo.co.jp